

国産濃厚飼料“イアコーンサイレージ”の生産利用技術

輸入トウモロコシ穀実に代わる国産濃厚飼料イアコーン(トウモロコシ雌穂)サイレージの低コスト生産利用技術を提示

研究開発の背景

- ・配合飼料原料の輸入穀物価格が2008年から高止まりし、家畜生産における飼料費の抑制が喫緊の課題になっている。
- ・環境負荷の小さい資源循環型畜産の実現には、濃厚飼料用作物を自給生産することが不可欠である。
- ・そのため、栄養価が高い飼料用トウモロコシ雌穂(イアコーン)を既存の機械をフル活用した低コスト生産給与技術体系の確立が必要。



研究成果の内容

イアコーンサイレージの低コスト生産利用技術体系の確立

既存の機械利用とスナッパヘッド導入で、高栄養のイアコーンサイレージをホールクロップ並の作業能率(1.2~1.5ha/h)で収穫調製でき、長期保存ができることを確認



収穫

(スナッパヘッド)装備自走式ルーバスタダンプトラック



密封・梱包²(サイレージ調製)

(細断型ロールベアラ)

生産利用マニュアルを策定

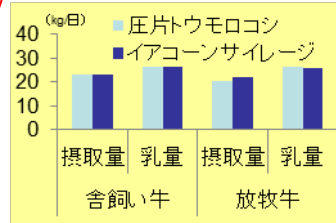


採食量、乳量とも変化なし

TDN^{*1}含量約80%のイアコーンロールベアラサイレージは、乳肉用牛の嗜好性が高く、輸入圧片トウモロコシの代替が可能

圧片トウモロコシ

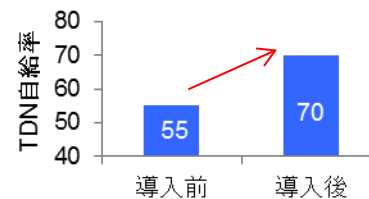
イアコーンサイレージ



導入メリット

イアコーンサイレージ生産利用技術導入で、購入飼料費削減、乳生産性維持、自給率向上が可能となる。

飼料自給率向上



イアコーンサイレージ導入で、乳生産性を落とさずに、15ポイントの飼料自給率向上が可能となることを実証(乳量38kg/日設定TMR²給与)。

圧片トウモロコシ購入価格並の生産コスト



梱包ロスの低減や収量性の向上により低コスト化が実現

生産コストはハーベスタ、ベアラ所有のTMRセンターでの2010年度試験に基づいた試算結果

期待される効果

- ・酪農・畜産における自給濃厚飼料生産による飼料コストの低減と自給率向上。

* 1: TDN: 可消化養分総量(家畜が消化利用できる養分量)
* 2: TMR: 混合飼料(牧草等の粗飼料とトウモロコシ等の濃厚飼料を混合した飼料)

導入をオススメする対象
飼料用トウモロコシが生産可能な地域のTMRセンター、コントラクター組織等